市之倉だより

多治見市立　市之倉小学校　　令和８年 12 月号
〒507-0814　多治見市市之倉町 10－381
TEL 0572－22－3702　ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ http://school.city.tajimi.lg.jp/ichinokura/

秋晴れの美しい空の日が多く、元気に外で遊ぶ子供たちの姿を多く見ることができました。しかし、このところ一気に寒くなってきましたので、インフルエンザ予防など体調管理も見届けていきたいと思います。地域の皆様もお体ご自愛いただき、子供たちへ温かいお声掛けや見守りをお願いいたします。

「6×４＝25」…箱の陰にもう一つ

校　　長

先日、授業の様子を見て回っていたときのことです。

２年生が算数の授業（掛け算）をこれから習っていくという段階での出来事で、こんな問題がありました。　**「お菓子が6個入った箱が4箱あります。お菓子はいくつありますか。」**



答えはもちろん、６×４＝２４個です。

ところが、ある子のノートには「２５個」と書かれていました。

「ん？」さらにノートをよく見てみると、小さな文字で**「はこのかげに　ひとつ　かくれていたから」**と理由が書かれていました。

はっとしました。思わず拍手をしかけるほどでした。

確かに、箱の陰に隠れているお菓子が一つあったのかもしれません。問題文には書かれていないけれど、その子の頭の中には、箱が並んでいて、その陰に隠れているお菓子まで見えていたのでしょう。その一つをこっそり食べるシーンまで浮かんでいたかもしれませんし、誰かにプレゼントしたかもしれません。いろんな物語が瞬時に出来上がったのでしょう。

算数の問題としては、正解は２４です。算数・数学では、絶対的な正解が存在します。でも、私はこの「２５」という答えに、何とも言えない感動とざわつきを覚えました。

問題文に書かれていることだけでなく、その先にある情景を思い浮かべ、自分なりの世界を広げ、頭のなかで自由を満喫していたからです。

私たちは、子どもたちに正しい答えを導き出す力を身に付けさせたいと願っています。そしてその方法を教職員同士で日々話し合い、追究しています。それはもちろん大切なことです。

けれどもそれと同じくらい、いや、それ以上に大切にしたいものもあります。それは、子どもたちの自由な思考や、「もしかしたら……」「こんなことがあったら…」と一つの事象を多面的に想像し、考える心です。ワクワクする発想ができる力です。

そして、子どものそれらをすぐに正誤、善悪だけで判断するのではなく、まずは受け止め、一緒に面白がる。そんなゆとりのある市之倉小学校でありたいとも思います（ただ、これを無条件に褒めて広めてしまうと、きっとそれぞれの子がいろんなシーンを想定して、もう収拾がつかなくなる授業が目に浮かぶので注意が必要ですが）。

「２４」という正解の向こう側に、「２５」という豊かな世界を見せてくれた子どもに、改めて教えられたといいますか、不思議な感動を覚えた出来事でした。